

平成28年度第2回岐阜県図書館協議会議事要旨

1 開催日時 平成29年2月17日(金) 午後1時25分～午後3時35分

2 開催場所 岐阜市宇佐4丁目2-1 岐阜県図書館 2階 特別会議室

3 会議日程

- ・館長挨拶
- ・委員長挨拶
- ・議 題

<協議事項>

○平成29年度県図書館の運営について

①平成28年度アクションプランの中間評価

②平成29年度アクションプラン(案)

<報告事項>

○平成29～30年度に館内、館周辺で行う工事

4 委員の現在数 10名

5 出席委員等の人数及び氏名 9名

委員長	高橋 博美
副委員長	葉袋 秀樹
委員	梶井 芳景
委員	春日井 一郎
委員	片山 誠吾
委員	金森 さちこ
委員	倉地 幸子
委員	寺澤 裕子
委員	福士 秀人

事務局出席者

石原館長、原副館長、西村総務課長、谷村企画課長、酒向サービス課長、五十川管理調整係長、多田課長補佐兼企画振興係長、村田資料係長、稲垣課長補佐兼図書利用係長、木戸調査相談係長、近藤郷土・地図情報係長

教育委員会出席者

今瀬社会教育文化課管理調整監

6 議事の経過及び結果

[午後1時25分、副館長の司会進行により、協議会の開会に先立ち、館長から挨拶を行った。]

(石原館長挨拶要旨)

本日は、平成28年度のこれまでの実績報告と平成29年度の活動方針を中心に説明させていただきます。当館の運営について、多面的、多角的にご指摘、ご助言を賜りたい。

最近の県図書館をとりまく環境や方向性について3点ほど説明をさせていただきます。

まず、県図書館の現在の状況については、1年半ほど前に岐阜市立図書館が開館し、これに伴い平成27、28年度は貸出冊数等が減少したが、県立図書館ごとの貸出冊数を見ると、岐阜市立図書館の開館後も全国11位ということで、1つの図書館としては貸出冊数が多い状況である。岐阜市立図書館の開館前は全国7位であったことから、岐阜市図書館と機能を分かち合った結果といえる。また、入館者数については、27年度は減少したが、28年度は暦年ベースで6パーセントほど増加している状況である。

岐阜市が図書館を整備されたことで、県図書館が、県全体の図書館としてどうあるべきか。今までのように来館者を待つスタンスから県全体に向けてサービスを展開していくのが県図書館の役割だと考えている。新年度には特に中心的な使命である課題解決について能動的にいろいろなところへ働きかける図書館となるため、県全体を視野に入れて新しい事業を展開していこうと考えている。これに併せ、図書資料費についても大幅な予算増をお願いしている。

県図書館の向かいには県美術館があり、南西の角にあった福祉友愛プールの跡地に木のおもちゃ美術館（仮称）を作る計画がある。また、県図書館の2階を再整備し、県博物館と連携した展示やワークショップの開催を計画している。このエリア一帯を総合的な文化の発信地にしていきたいと考えている。

新年度から組織が改正され、県図書館は教育委員会から知事部局へ移ることになっている。教育機関である図書館を主として知事部局が担っている文化行政の中に位置付けることになるが、教育委員会とも連携をしっかりと保っていくことになる。法律上の位置づけは変わらない。知事部局の文化施策や美術館等との連携を図っていく。

今年度、職員が気が付いたことはいろいろ改善を図ってきた。エントランスホールにテーブルをおいて会話ができる場所を提供したり、ロビーに展示できるスペースを設けたり、ティーンズコーナーを設置したり、読書通帳を配布したりと新たな取り組みを行ってきた。外部から見ていただいた率直なご意見をいただいて、今後の図書館運営に活かしていきたいと考えているので忌憚のない意見をお願いしたい。

(高橋委員長挨拶要旨)

前回の協議会において、委員の皆様方から貴重なご意見を多数出していただきお礼を申し上げます。また、県図書館にあっては、県民のために様々な業務を遂行していただき感謝申し上げます。我々高等学校の図書館は、県図書館の支援を受けながら充実を図っているため、今後も支援をお願いしたい。

最近、ICTや人口知能に関する話題がよく出てくる。学校現場においても、高校生はほぼ全員スマートフォンをもち、簡単に情報にアクセスできるようになっている。一

方、実際の映像や視覚と言語や言葉との結びつきが希薄になってしまっていることが危惧されている。読書のように文字とその意味を自分で考えながら思考の中で練っていくような作業はどんな時代になっても必要である。ただ、それをとりまく環境は大変大きくかわってきているので、教育の方でも読書のもつ深い意味が再度問い直されている動きがある。このような変化の激しい時代でもあるので、図書館の取り組みにおいても充実を図っていく部分と環境の変化に合わせて新しく取り組む部分が必要となってくると思う。

委員の皆様方には積極的に意見をいただき、充実した会議になることを祈念する。

[事務局から本日の出席者について、委員10名中、9名が出席しており、定足数に達している旨を報告した。]

(委員長)

[委員長は、議題の協議事項である「平成29年度県図書館の運営」について、事務局の説明を求めた。]

(事務局)

[事務局から、協議事項「平成29年度県図書館の運営」について説明]

(委員長)

[委員長は、協議事項「平成29年度県図書館の運営」について、委員の発言を求めた。]

(寺澤委員)

今回の資料及び報告は、前回の協議会で説明された平成28年度アクションプラン等に基づいて説明されていないように感じる。催し物を中心とした報告で、アクションプランにあった平成28年度の新たな取り組みが具体的にどのように実行されたか説明がなく分かりづらい。

(多田企画振興係長)

これまでの実績は平成28年度アクションプラン中間報告のペーパー1枚にまとめており、今回、それぞれの項目についての実績をまとめた資料は出していない。ただし、12月までの実績はまとめている。

(寺澤委員)

展示や企画をしたという報告が中心になっているが、日々の図書館業務で具体的にどのように取り組んでいるかという報告も大切なのではないかと。

(石原館長)

今回、県民に見える形のものを整理しようということで、新しいコーナーを設置したり、イベントの実施等の取り組みを示した。図書館内部の日々の取り組みをどのように表現していくかについては今後検討させていただく。

(寺澤委員)

新たな取り組みとして開始されたティーンズコーナーの設置、子育て支援資料の整備、障がい者向け資料の充実をうれしく思っている。さらなる充実に向けて次の点をお願いしたい。

子育て支援コーナーには、県内各自治体の子育て支援関連資料が集められているが、県内に留まらず、全国の先駆的な取り組みをしている自治体等の資料も幅広く収集いただきたい。子育て世代のみならず、保育所問題など関心ある人たちへのよい資料提供になると思う。

ティーンズコーナーは、文学だけでなく、将来に向けての本など幅広く紹介されていた。ぜひ拡充し、継続してほしいと願っている。そのためにも担当職員について配慮いただきたい。このコーナーも児童サービスの方が担っておられると聞いたが、児童サービスは資料をより熟知していることが求められる。子どもの発達に応じた資料収集と提供の基礎を作り、次の担当者に引き継ぐには、ある程度の時間が必要になってくる。これまで児童サービス担当者の多くが2年で交代され残念に感じている。ぜひこのコーナー設置を機会に職員の養成についての体制づくりもお考えいただきたい。

障がいをもっている人へ資料提供は言うまでもないことだが、これら障がい者向け資料を障がいをもっていない人にも紹介してほしい。例えば、収集された中に『てんじつき さわるえほん ぐりとぐら』や『てんじつき さわるえほん しろくまちゃんのほっとけーき』などがあり、これらは見えるひとも見えない人も一緒に楽しめる。実はこれらの点字絵本は普通の絵本と比べて高価で手に入れにくいですが、県図書館だけでなく各自治体等にも広げ、また複本で購入することで点字資料の広がりにもつながる。健常者がこうした絵本やLLブックなどについて知ることによって障がい者問題をより理解する機会になっていくと思う。そうした提供もぜひお願いしたい。

(福士委員)

今年度の利用・活用実績の中で、来館者数については前年比106%で、利用者が戻ってきているという説明であったが、その他の項目はそれに比例していないのが気になった。

季節的な傾向なのか、各種行事を開催することによって図書館利用の呼び水になっているのか、関連する図書の出入りの有無も影響しているのかなど教えていただけると、今後の図書館利用を進めるうえでの参考となる。行事をすることで図書館の利用が進み、その後、リピーターが増えてきていることも分かってくるのではないかと。

今回、児童書の利用が下がっていることを考えると、年代別の利用状況の変化が、岐

阜市立図書館の影響として出ているように思われる。来館者の年代別は難しいと思うが、貸出しについてはある程度背景も把握できると思うので、年代別の利用状況の変化もみていくと、どういった点に力を入れていくと利用が進むか分かるのではないかと。併せて県域全体をみたときに、他の自治体との連携によって、県域全体としての利用状況がどのように進んでいるのかをみることも、今後の県立図書館の役割を考えていくうえで参考になるのではないかと。

(片山委員)

私は、子育て世代への支援に興味をもった。校長をしているが、今、子育てに悩む親が多く、PTAの講演会においても子育ての実例を聞きたいという意見が多い。本日、『魔法の扉を開いてみませんか？<知識の絵本編>』の冊子が配付されているが、こういったものが非常に求められていると思う。能動型課題解決支援の視点としてよいと感じた。親子で図書館に足を運ぶきっかけにもなると思う。

また、この「読書通帳」は地域の図書館と連携して広げていく考えはあるか。

(谷村課長)

市町村図書館に問い合わせをしたところ、こうした取り組みは既に多くの図書館で進められており、未実施の公共図書館も同様の取り組みを一斉にしようということで、県図書館も11月から配布している。

(寺澤委員)

本日、配付された『魔法の扉を開いてみませんか？<知識の絵本編>』は、とてもいい冊子で、早速利用させてもらっている。2年前「第三次岐阜県子どもの読書活動推進計画」策定時に岐阜県公共図書館協議会から出された『魔法の扉を開いてみませんか？～子育てに絵本をどうぞ～』と2冊をセットで活用できると喜んで、市町の図書館に問い合わせたら、予算がなく希望があれば取り寄せるということだった。県図書館にあるだけでなく、市町の図書館にあることが大事だと思う。せっかくの冊子が、これでは広がっていかない。ぜひとも継続的な予算化をお願いしたい。また、こうしたより良い資料と図書館活動がみんなのものになっていく工夫をお願いしたい。

(谷村課長)

予算がかからない方法として、ホームページという手法も考えていきたい。

(葉袋委員)

意欲的にいろいろな取り組みがされており、全般的に結構だと感じている。

本日の資料の作り方について、今年度の事業実績の部分であるが、最近の図書館の報告書はこのような感じになってきている。つまり、事業実績がいわゆるイベント中心に

なっており、悪く言うと公民館の報告書みたいにみえてしまう。

図書館は資料の選択、貸出し、リクエスト、レファレンスといった日常業務が基本であるが、報告書に書きにくいと、後ろの方で統計データだけ紹介することになりがちになる。意欲的に新しく始めたイベントが前の方に出てきて、日常業務の説明がないということになるので、ご検討いただきたい。本日は口頭で説明があったので、これを文章にして、うまく組み合わせて、図書館の日常業務にはどんな問題があって、どう取り組んでいて、今後、どんな課題があるかが分かるように報告していただくとよい。選書にどういった苦勞があるのか、貸出しサービスをどのように改革しているのか、また貸出しの内容についても、分類番号で分類したり、いろんな課題に関連する本では、こういう本がこれだけ借りられているということも毎年テーマをかえて紹介していくこともできると思う。

また、ウェブサイトについてもあまり記述がないが、いろいろ工夫をされているので、毎年の改良点を記録していただいたい。「電子図書館サービス」のページを作って、いろんな分野で行っているデジタル化の取り組みをまとめておくとよい。今年度はメールマガジンを開始し、来年度は資料のデジタル化を進めるとあるが、デジタル化はいろんな分野で行われているため、全体像がつかみにくい。「電子図書館サービス」のページを作ることで、図書館がデジタル化に向けて着々と進んでいることがはっきり分かってくる。

イベントに関しても、パスファインダーを作ったこと、関連資料をデジタル化したことなど、図書館にその成果が資料として蓄積されていることが分かるようにすれば、図書館ならではの活動だということが分かるのではないかと思うので、資料の作り方について工夫をお願いしたい。

(倉地委員)

12月17日に子育て世代のための文化系トークに参加した。若い人の参加が多かったが、おばあちゃん世代の私たちが聞いていても、ストーリー性と構成している絵がどういう意図でデザインされているかという話はとてもおもしろかった。若い世代に限らず、大人に向けても枠を広げていただきたい。

また、今年度のアクションプランで新たな取り組みとして、「利用者目線の館内表示と資料排架」があげられており、分かりやすい館内表示、掲示物の改善など、具体的な取り組み内容を聞いたかったが説明がなかった。県図書館は何年来利用しており、特に料理やファッション関係をよく探すが分かりづらくなかなか目的の本にたどりつかない。何とかならないか、ずっと言い続けているが全く変わっていないのは悲しい。コンピュータ関係の本も同様である。新しい本と古い本が混在していて、どの本が一番新しいのか分からない。レファレンスにしてもよいが自分の目で探したい。市町の図書館では探しやすいように努力をされており、ちょっと見出しをつけるだけで探しやすくなる。県図書館では医療系コーナーが大変詳しく分類された見出しがつけられ、とても探しやすい

くなっている。分かりやすい分類で利用者が借りたいと思うような努力をお願いしたい。書店にも見習うところもあるのではないか。利用者のための展示の仕方について改善をお願いしたい。

(葉袋委員)

図書館全体のガイドが必要だと思う。今年度、いろいろなコーナーが新たにでき、来館者や県民にアピールするものができたので、図書館の入口に来た時にどこにどういった資料があるのか、全体が分かるような案内にしてほしい。例えば2階に教科書があるが、普通の人は教科書が置いてあるとは思わない。入口に教科書があることを明示することで、教科書を見に行こうと思うようになる。いろいろな資料の種類と所在を全部示して、来館者が入口でこの図書館にはどのような資料があるのかが分かりやすいようなガイドをしてほしい。

以前、視察した愛知県図書館では排架図が4～5メートルおきに書架に貼ってあり、排架図のところまで戻らなくても、少し移動すれば見られるようになっていた。名古屋市立鶴舞中央図書館の入り口には、1階に何があって2階に何があるという案内がされている。

(石原館長)

排架については、従前から指摘を受けて気にしている。配置についても今年度、ぎふ清流の国文庫を設置し、今後、海外情報コーナーを設置するというので、まだ最終的な形がみえない状況なので、今後、少し落ち着いたところでしっかり考えていきたい。

(金森委員)

これまでの各委員の発言を聞いていてポイントとなるのは、利用者目線と情報発信能力と感じた。今年度の取り組みの中で、文化の森の秋祭りがおもしろい取り組みと感じたが、これを毎年行うのであれば、それが呼び水になって図書館の利用が増えるか、そこがポイントになると思う。親子で岐阜県に関するアニメのキャラクターの塗り絵をして、それをしおりにするようなこともおもしろいのではないか。

平成29年度アクションプランに関し4点提案したい。

学校教育・教材研究の支援に関し、学習指導要領が12年ぶりに全面改訂され2020年度から順次導入されるが、先生方もどんな教材を使ったらよいかなど困ることもあると思うので、それに伴い関連図書の充実を図っていただきたい。

次に、世界に開かれた交流の場の創出に関し、現在、県では飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクトが推進されており、ベトナムやフィリピン等においてトップセールスが行われていると聞いたが、行政とタイアップするのが県図書館の役割でもあると思うので、そういった国々の本の充実を図っていただけると県職員の利用も増えるのではないかと思う。

郷土を知り学ぶ、ふるさとへの誇りと愛着を育む機会の創出に関し、郷土というのは物だけではなくて、人も宝なので、アニメで岐阜に注目されているなか、ぎふ清流の国文庫やティーンズコーナーに岐阜県出身の作家の本を入れることで、より岐阜県の文化に触れるよい機会になると思う。

最後に、子育て支援に関し、ある町では小学生の就学時検診の時に、子育てと絵本をリンクした講演会を開催し、絵本を活用することにより子育て支援につなげる取り組みがされているが、こうした取り組みをしている学校や市町をPRしてもらいたい。また、図書館で作成される冊子で絵本を活用することで得られる効果を紹介してほしい。

(春日井委員)

入館者数が前年比 106%と増えたのに、貸出人数や貸出冊数等が減少していることが疑問だったが、これまでの話を聞いて、様々なイベントが大変好調だったことによって入館者が増えたという理解でよいか。

(石原館長)

イベントは別会場でやることが多いので、イベントの帰りに入館される方もあったとしても、その影響は少ないと考えている。むしろ、図書館の利用の仕方がかわってきていて、図書を借りなくても試験勉強、資格勉強をされるような図書館で過ごす利用が増えたことも影響していると考えている。

また、児童書の利用が減少しているのは、岐阜市立図書館では子どもが多少騒いでも怒られないということで、小さいお子さんを連れた母親は岐阜市の図書館を利用し、静かで落ち着いた雰囲気を好まれる人は県図書館に戻ってみえたように感じている。

(春日井委員)

イベントで図書館に来館される方が貸出人数や貸出冊数につながっていないのであれば、図書館の入口で、どこにどんな本があるか分かるようにすることで、イベントの参加者が帰りに本を見て借りようかと思うようになるのではないかと。

イベントについては、興味深いものが多く、私も大人のためのブックトークに参加したことがあるが、遠くの方に知らせるためには動画を配信してPRするというやり方もあるのではないかと。

(梶井委員)

論議の中で、県図書館としてということ全面的に押し出している活動になっているが、委員の発言の中に逆に市立図書館化しようとしている意見もあり違和感を覚えた。例えば、ティーンズコーナーにしても県図書館としてのコーナーを設けるべきであって、市立図書館と競争するようなコーナーを作ることを要求しているわけではない。

先程、館内を視察したが、資料費の逓減もあって本が古くなったと感じた。特に9類、

現代小説のあたりの本は古い。それは収集方針のとおりなので、今後は資料性の高いレファレンスライブラリーとしての資料揃えになっていくのだろうと思う。

それでも多く利用してほしいという意味合いが交錯している部分があるようにも思うので、その過渡期を乗り越えて県立図書館としての資料収集をしていくべき。

読書通帳については、PRはしているが各学校へ人数配布するというような強制はしていない。希望者だけに配付している図書館もあることをご承知おき願いたい。

(寺澤委員)

今年度、開催された市町の図書館や公民館図書室との意見交換会の中で、各図書館の資料所蔵スペースの問題が話題になることはなかったか。というのも大垣市では収納率が160%を超えていると聞いているし、他の市町図書館でも収蔵スペースに苦慮しているようだ。最近では、本・雑誌がリサイクルのような形で利用者提供されるようなこともあるが、図書館の大切な資料はきちんと残していただきたいと思っている。県全体できちんと保存していくことについても考えていただきたい。今、デポジット・ライブラリーの動きがあるように聞いているが、設置母体が違っていても複数の図書館が協力し合って、それぞれ所蔵が困難になった資料を一か所に集めて共同で保存・提供していくような仕組みを今後、何らかの形で検討いただきたい。

(葉袋委員)

県立図書館の使命、ミッション、資料の収集方針については、館長から説明のあったとおり、現在の方向で進めていただけてよいと思う。

貸出冊数が減少していることについては、この図書館にある専門的な優れた資料を使いやすくすることによって貸出しを増やしていくことを考えていくべきである。例えば、ビジネス関係は、3類のほかに6類にもあるが、これを物理的にまとめると労力がかかるので、ビジネス関係の本の探し方について簡単な案内図を作るなど、あまり労力のかからない方法で図書館全体を使いこなせるようにすれば、貸出しも増えるのではないかと。

また、岐阜市立図書館とのすみわけや県立図書館としてのあり方の模索などを利用実績に書き込んでもらえれば、県図書館のアイデンティティがよく分かると思う。

(福士委員)

移住定住の図書を2階に展示しているという話があった。高齢化社会に向けて岐阜県も例外なく人口が減少しており県内の各自治体も困っているが、それを解消するために都市部から人を呼び込もうとしている。各自治体の人々が岐阜県のPRをする時や都市部の人で岐阜県を知りたいと思った時に県図書館のホームページに移住定住の資料があることが紹介されているとよいし、実際に土地を見に来た時に、若い人だと子育てをどうするか、健康が守れるか、高齢の方であれば知的好奇心が満たされるかということが大きな要素になると思うので、住みやすさに加えてそうした満足度についても県図書館を

中心に発信されていくと都市部から人を呼び込む上で大きな意味をもつのではないか。

(委員長)

[委員長は、協議事項に対する質疑意見を打ち切り、各委員の意見を参考に事業を進められるよう事務局に依頼し、報告事項の説明を求めた。]

(事務局)

[事務局から報告事項について説明]

報告事項 平成29～30年度に館内。館周辺で行う工事

(委員長)

[委員長は、自由発言を求めた。]

(委員長)

[質疑、意見等他にないことを確認し、今後のスケジュールについて事務局に説明を求めた。]

(事務局)

[今後のスケジュールについて説明]

次回の協議会の開催は、平成29年7月の開催予定。

[本日の協議事項の審議がすべて終了したことを確認し、午後3時35分に閉会宣言した。]